

続・商店街

37期生

I テーマ設定の理由

去年は、「商店街」というテーマで、代表的な三つの商店街の商店の割合を調べて、各商店街の性格について調べた。その研究をしていくうちに、駅に近い所と遠い所では変化があることに気付いた。また、その駅などを利用して来る客が、どのあたりから来て、どういう目的で来ているのか？と疑問が出てきたので、それらを解決するために、今年もまたこの「続・商店街」というテーマで研究しようと思った。

II 研究方法

(1) 駅の近い所では商店の種類にどのような変化が出ているかを調べる。

去年の資料をもとにして、代表的な三つの商店街について調べる。

① 駅(駅の出入口)から両側(片側)30店の場合。(1984年8月調査より)

② ①の結果をもとにして各商店街を比較する。

(2) 客について

① 自分の家の各商店街の利用状況を調べる。

② 各商店街にいる客にアンケートをする。

(3) 営業方針について

① 各商店街の工夫している所・特徴。

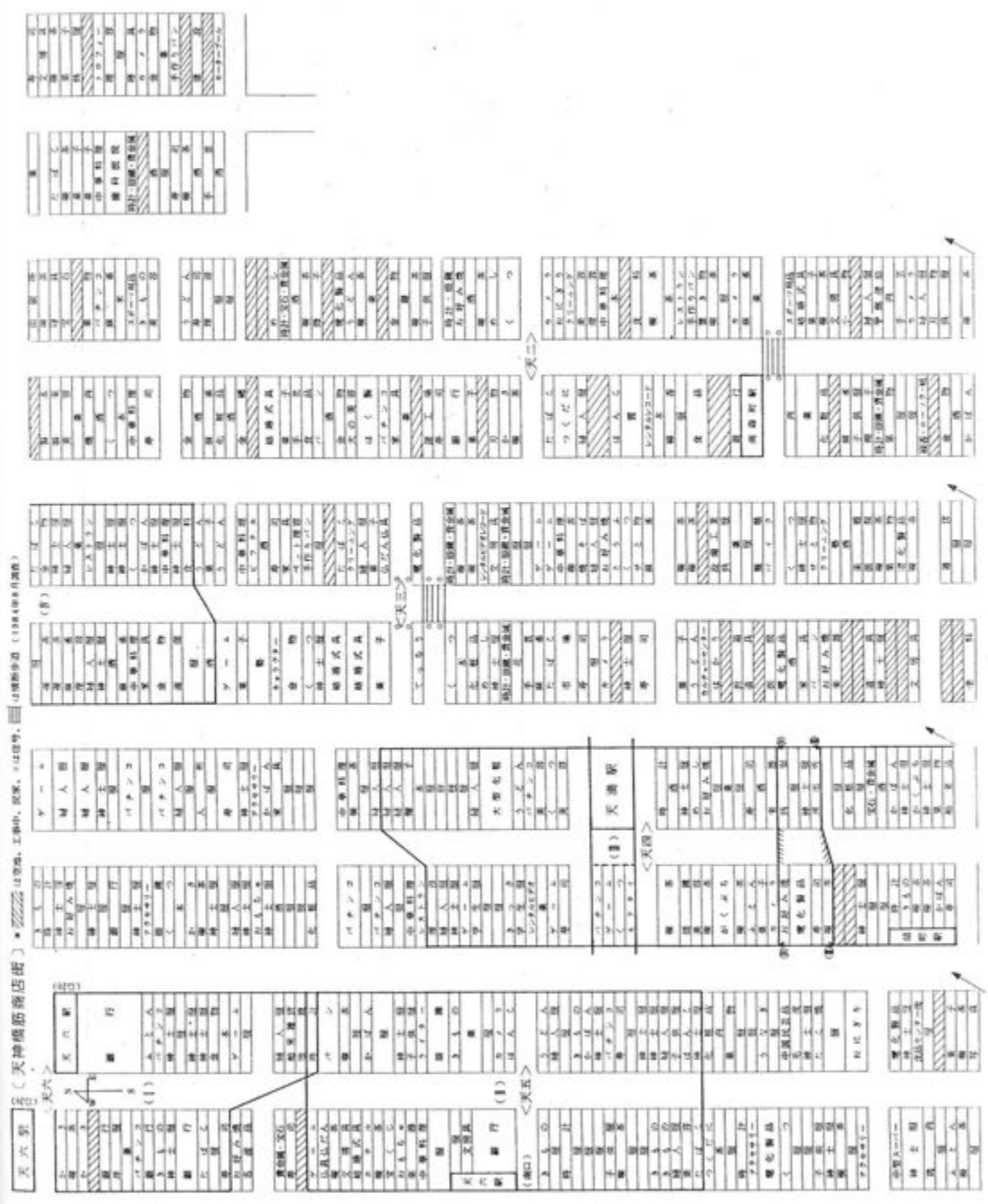
② 各商店街の営業方針を聞く。

III 研究結果

(1) (a) 天神橋筋商店街

- 性格 高級品を主体として売る商店街。
- 客 遠くから来る人中心。
- 客の目的 高級品を買う。遊びや勤めの帰りのついでにも。
- にぎわう時刻 一日中。
- 交通 阪急天六駅・市交扇町、南森町(北浜)駅・国鉄天満駅(計出入口6つ)・市バス停6つ。
- 駐車場の有無 商店街の外に点在。
- 辺りの様子 ビル街。一部住宅地。
- 路面の様子 天六～天四…タイル張り。天三～天二…アスファルト。
- ネオン 天六～天四…明るい店多い。天三～天二…明るい店少ない。

- アーケード 天六～天四…有り。天三～天二…有り。しかし貧弱。
- 全長 約1350m
- 店数 553店



① 駅(駅の出入口)から両側(片側)30店の場合。(天六~天四に限る)

(I) 天六駅北口

店名	店数	比率Ⅰ%	比率Ⅱ%
洋装	11	36.7	41.4
銀行	4	13.3	1.9
娯楽	3	10.0	5.6
貴金属	2	6.7	4.3
飲食	1	3.3	9.3
喫茶	1	3.3	6.0
本屋	1	3.3	0.9
その他	7	23.3	10.4
計	30	99.9	79.8

(II) 天六駅南口

店名	店数	比率Ⅰ%	比率Ⅱ%
洋装	26	43.3	41.4
和装	5	8.3	2.8
喫茶	4	6.7	6.0
貴金属	4	6.7	4.3
飲食	3	5.0	9.3
娯楽	2	3.3	5.6
文房具	2	3.3	0.6
はんこ	2	3.3	0.6
銀行	1	1.7	1.9
その他	11	18.3	10.0
計	60	99.9	82.5

(III) 天満駅

店名	店数	比率Ⅰ%	比率Ⅱ%
洋装	21	35.0	41.4
飲食	8	13.3	9.3
喫茶	5	8.3	6.0
娯楽	5	8.3	5.6
美理容	4	6.7	1.9
貴金属	2	3.3	4.3
薬局	2	3.3	1.5
酒屋	2	3.3	1.5
本屋	1	1.7	0.9
その他	10	16.7	11.3
計	60	99.9	83.7

(IV) 扇町駅

店名	店数	比率Ⅰ%	比率Ⅱ%
洋装	24	40.0	41.4
飲食	6	10.0	9.3
喫茶	5	8.3	6.0
酒屋	3	5.0	1.5
娯楽	2	3.3	5.6
貴金属	2	3.3	4.3
和装	2	3.3	2.8
食品	2	3.3	2.2
金荒物	2	3.3	1.2
その他	12	20.0	11.9
計	60	99.8	86.2

※ 比率Ⅰ = ①の全店数に対する比率
比率Ⅱ = 商店街の全店数に対する比率

〈考察〉 この4つの結果を見てみると、駅に近い所では商店の種類に変化が出てきている。これらの結果を比率Ⅰ% - 比率Ⅱ%を比率Ⅲ%として表にまとめると、左下のようになる。

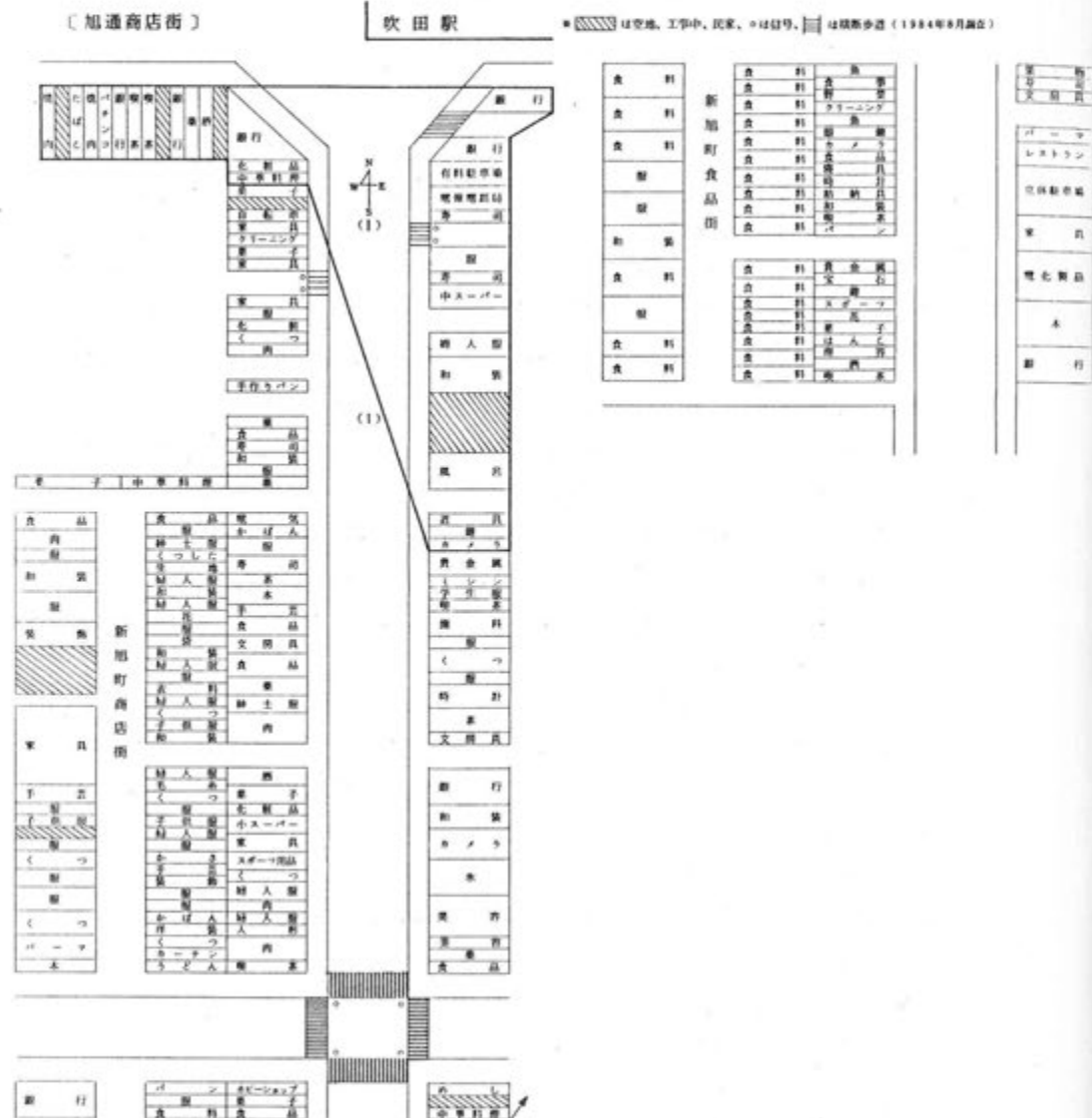
店名	(I)	(II)	(III)	(IV)
銀行	+11.4	-0.2	-1.9	-1.9
娯楽	+4.4	-2.3	+2.7	-2.3
本屋	+2.4	-0.9	+0.8	-0.9
喫茶	-2.7	+0.7	+2.3	+2.3
飲食	-6.0	-4.3	+4.0	+0.7
酒屋	-1.5	-1.5	+1.8	+3.5
貴金属	+2.4	+2.4	-1.0	-1.0
食品	-2.2	-2.2	-2.2	+1.1
洋装	-4.7	+1.9	-6.4	-1.4

銀行について、(I)では+11.4%となっている。駅から降りた客や、(I)は商店街の先頭部分で大きな道路に面し、そこからやってくる客などが、銀行でお金をおろしてから買い物をするために、(I)に銀行が集中している。(II)や(III)では、駅の乗客の乗り入れ数が少ないため、ここには銀行は集中してなく、(III)は、あまりお金を要しない、娯楽や本屋、喫茶、飲食、酒屋(居酒屋)が多いため、銀行が少ないと思われる。だからこの天神橋筋商店街は、銀行が集中することから、大きな買物専門の商店街といえます。娯楽は(I)や(III)で集中していますが、これは(I)や(III)の駅では乗客の乗り入れ数が多いため、ちょっと一服という客をねらっていると思います。本屋も娯楽と同様に、勤め帰りにちょっと寄ってみようという客をねらっていると思います。喫茶は、買い物を終えた客が休憩ということで、駅付近に集中していると思います。飲食や酒屋(居酒屋)は、勤め帰りのサラリーマンや客が一服ということをやってくるのをねらい、駅付近に集中していると思います。酒屋、貴金属、食品、洋装は相対的に駅には集中していないと思います。駅に集中するのは、一服とか休憩などの軽い目的の商店であるため、これらはあまり集中していないと思います。しかし、貴金属の(III)は大きい買物は先にやっしまおう、ということで、駅や銀行付近に若干多くなっています。酒屋は(III)と(IV)、食品は(I)、(II)、(III)が0軒、洋装店は(II)を除いて比率が低く、このことから、大きなお金が割合必要な店や日用品店は、駅の近くには少ないということです。しかし、洋装店の(I)では、かさ屋が2軒あり、このことから、急に雨が降り出した時、かさを買いに来る客をねらっていると思います。

(b) 旭通商店街

- 性格 高級品と日用品の両方を売る商店街。
- 客 近所の人や遠くから来る人。
- 客の目的 高級品や日用品を買いに来る。
- にぎわう時刻 一日中だが、昼と夕方は特に混雑する。
- 交通 国鉄吹田駅・阪急バス停3つ。
- 駐車場の有無 2つ。1つは立体駐車場。

- 辺りの様子 住宅街。
- 路面の様子 タイル張り。
- ネオン 高級品を売る店は明るい。
- アーケード 車道を挟んでいる為なし。シェード(日よけ)は有り。
- 全長 約450m
- 店数 211店



① 駅(駅の出入口)から両側(片側)30店の場合。

店名	店数	比率Ⅰ%	比率Ⅱ%	比率Ⅲ%
飲食	5	16.7	7.1	+ 9.6
銀行	5	16.7	3.8	+12.9
洋装	2	6.7	24.2	-17.5
喫茶	2	6.7	2.9	+ 3.8
道具	2	6.7	0.9	+ 5.8
酒店	1	3.3	1.4	+ 1.9
娯楽	1	3.3	0.9	+ 2.4
本屋	0	0.0	1.4	- 1.4
貴金属	0	0.0	2.9	- 2.9
食品	0	0.0	20.9	-20.9
その他	12	40.0	13.7	+26.3
計	30	100.1	80.1	+20.0

〈考察〉 (a)の時と同じ、銀行、娯楽、本屋、喫茶、飲食、酒屋、貴金属、食品、洋装という9つの項目の比率Ⅲについて考察する。銀行について+12.9%となっているが、やはり(a)の時と同様に、吹田駅から降りてきた客が、銀行にお金をおろすため、駅付近に銀行が、かなり集中している。だから、電車を利用して来る客は、この商店街で大きな買物をしに来る場合が多い、ということが言える。娯楽も(a)と同様にちょっと一服ということで寄る客がねらって、駅付近での比率が高くなっていると思います。本屋は、駅の近くには一軒もありませんが、その理由として、

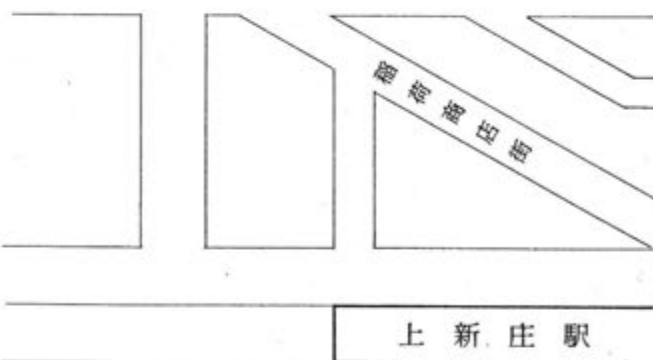
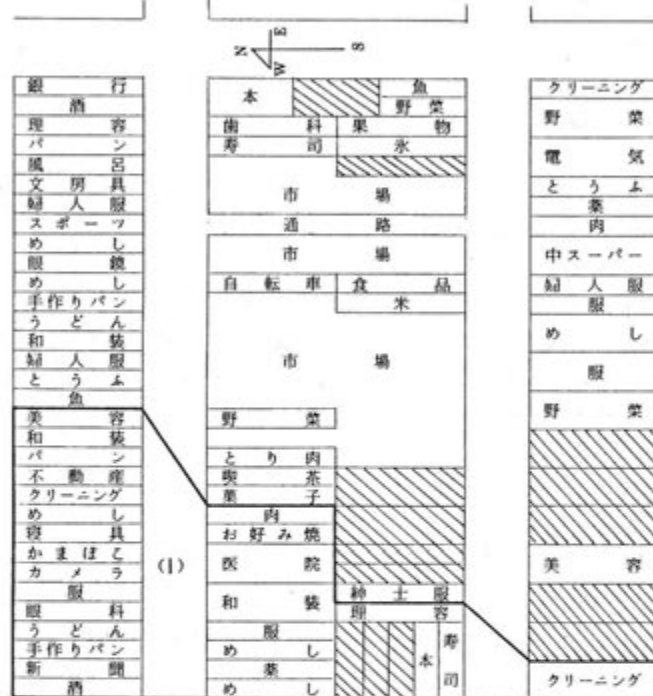
駅と商店街が少し離れているため、立ち寄りにくいのだらうかと思っています。喫茶は+3.8%と多くなっています。これも買い物を終えて帰ろうとするときに休憩ということでやって来る客をねらっていると思います。飲食店も+9.6%で、勤め帰りのサラリーマンの休憩、買い物客、工場の従業員の昼食等をねらって、駅付近に集中していると思います。酒屋(居酒屋)も駅付近での比率が高く、サラリーマンの勤め帰りの一服をねらっていると思います。貴金属は駅近くには一軒もなく、駅付近には軽い目的の商店が大半のため、このような大きい目的の商店は少なく、食品も同様に日用品を売る商店は駅の近くには少ない。洋装も大きい目的の商店でやはり-17.5%と駅付近の比率は低くなっています。このことから、軽い目的の商店は駅付近に多く、大きい目的や日用品を売る商店は駅付近には少なくなっていると言えます。

(c) 小松・小松南商店街

- 性格 日用品や食料品を主体として売る商店街。
- 客 近所の人中心。
- 客の目的 日用品や食料品を買いに来る人。従業員の昼休みの食事。
- にぎわう時刻 昼と夕方。
- 交通 阪急上野原駅から徒歩すぐ。
- 駐車場の有無 なし。
- 辺りの様子 住宅街。
- 路面の様子 アスファルト。

- ネオン ほとんどなし。
- アーケード なし。
- 全長 約180m
- 店数 88店

〔小松・小松南商店街〕 ※ 斜線は空地、工事中、民家 (1984年8月調査)



① 駅から(駅の出入口)両側(片側)30店の場合。

店名	店数	比率Ⅰ%	比率Ⅱ%	比率Ⅲ%
飲食	6	20.0	13.6	+ 6.4
民家等	4	13.3	15.9	- 2.6
洋装	2	6.7	9.1	- 2.4
食品	1	3.3	17.0	-13.7
酒屋	1	3.3	2.3	+ 1.0
本屋	1	3.3	2.3	+ 1.0
銀行	0	0.0	1.1	- 1.1
娯楽	0	0.0	0.0	± 0.0
喫茶	0	0.0	1.1	- 1.1
貴金属	0	0.0	1.1	- 1.1
その他	15	50.0	25.9	+24.1
計	30	99.9	89.4	+10.5

〈考察〉(a)、(b)と同じ9項目について考察すると、銀行は0軒と駅近くにはなく、この商店街は、あまり大きな買物がなく、また駅との関係もほとんどないと言えます。娯楽も0軒ということで、一服を要しない近所の人が客であるということが言えます。本屋、酒屋、洋装はあまり変化がなく、喫茶、貴金属は0軒と全く駅と関係なく、客も電車を利用して来る人はいないということが言えます。食品は-13.7%と低くなっていますが、これは食品が、駅から遠い小松南商店街の方に集中しているためです。飲食店は+6.4%と多いが、これは駅の近くに工場・会社が多く、

この従業員たちが昼休みに食事に来るということを考えていると思います。実際、ある飲食店では、12時までガラガラだが、12時を過ぎるころには超満員になってしまいます。また、この商店街は民家等が多いことから結束力も弱いと思います。結論として、この商店街は駅との関係がほとんどないと言えます。

② 各商店街の結果(比率Ⅲ)の比較

今までの各①の結果(比率Ⅲ)を表にするとこのようになる。

店名	(a)	(b)	(c)
銀行	+ 7.4	+12.9	- 1.1
娯楽	+ 2.5	+ 2.8	± 0.0
本屋	+ 1.4	- 1.4	+ 1.0
喫茶	+ 2.6	+ 3.8	- 1.1
飲食	- 5.6	+ 9.6	+ 6.4
酒屋	+ 2.3	+ 1.9	+ 1.0
貴金属	+ 2.8	- 2.9	- 1.1
食品	- 5.5	-20.9	-13.7
洋装	-10.6	-17.5	- 2.4

〈考察〉(c)は一部を除いてはあまり差が大きくないので駅との関連性はほとんどないようだ。(c)を除いて考察してみると、(a)と(b)で、銀行、娯楽、喫茶、飲食、酒屋では駅に近づくほど比率が大きい。ということは、駅に乗り入れする乗客をねらっていて、しかも気軽に立ち寄れるような軽い目的の商店や買い物をする為にお金をおろす銀行が多いです。また貴金属や洋装など大きい買物は最初には買いにくく、食品などの日用・食料品は(a)や(b)には少ないことから比率が小さくなっ

ています。また(a)と(b)を比べるとより(a)の方が比率が大きくなっていると思います。

このことから、駅との関連が深いのは、客の目的と商店街の性格によって左右されてく
ると思います。また(a)では客がよそ行きの服と靴を履き、(b)ではよそ行きの服と靴、ふだ
ん着とつっかけ、ぞうりが半々、(c)ではふだん着でつっかけ、ぞうりが多いことから
も、このことがうかがえると思います。

(2) 客について

① 自分の家の各商店街の8月4日～8月18日の15日間の利用状況

項 目	(a)	(b)	(c)
利用回数	2回	5回	10回
交通手段	電 車 自動車	自転車 自動車	自転車 徒 歩
目 的	飲 食 洋装品	食料品 洋装品 飲 食	食料品 飲 食

〈考察〉 このように、家に一番近い、短時間で気
軽に行ける商店街をよく利用していると思います。毎
日の食料品は(c)で買うために、日曜と定休日以外は
毎日よく利用しているようだ。(b)では主に食料品
が目的だが(c)では買えないような品を買いに行っ
ている。洋装品については買い物に来たついでに
掘り出し物を買った程度である。飲食についても
買い物の途中と休憩を兼ねてのことである。
(a)については、親戚の大阪見物がてらに飲食店に
連れていったものと、洋装品を買いに行ったもの
である。このことから(c)→(b)→(a)と目的が明らか

に違い、また(c)→(b)→(a)となるにつれて目的がはっきりしてくるということである。
利用回数も交通手段も(1)の結果を反映したような結果になっている。(a)の場合ならや
はり最初に銀行でおろしてから買い物をして、喫茶店で休憩をしたりで、(b)では買い
物をして、昼食は飲食店ですったり、(c)は野菜を買うだけという、商店街の性格に乗
じて買い方も変わっている。ということは商店街の性格に応じて客の目的等も変わっ
てくるということである。そのことを裏付けた結果だと思う。

② 各商店街にいる客にアンケートをする

〈結果〉 あわただしくて、残念ながら(a)、(b)、(c)ともアンケートを実施できなかった。

(3) 営業方針について

① 各商店街の工夫している所。特徴。

〈結果〉 これといった観点の設定が難しいので、各商店街の自転車対策はどうなっ
ているのか見て感じたこと。

- (a) — 違法駐輪には比較的厳しく取り締まりをしている。また自転車利用の自粛を呼び
かけ、駐輪場も天満駅くらいにしかない。
- (b) — 違法駐輪には呼びかけをしているが、呼びかけ程度にとどめ、そんなに厳しくは
取り締まっていらない。
- (c) — 商店街の中央辺り等に駐輪場を設けているが、はみ出したりして迷惑な時もあり、

その都度、商店の人達がきちんと置き直している。

(a)、(b)、(c)の商店街で共通していることは、「商店街内では自転車から降りて歩
きましょう」であった。やはり商店街内での安全第一をモットーにしているよう
だ。また(a)、(b)、(c)の順に自転車対策が厳しいことから(a)、(b)、(c)の順に自転車
は必要はなく、自転車で来る客は少ないということの一端が表れているのかもしれ
ない。

② 各商店街の営業方針を聞く。

〈結果〉 (1)②同様、あわただしくて、残念ながら(a)、(b)、(c)とも営業方針等を聞くこと
はできなかった。

IV 結 論

商店街とは商店の集まりのことである。しかし、その商店街の性格によって、商店の種類に
は変化が出てくるし、客の目的なども違ってくる。同じ商店街でも内容が全く違うというこ
とはおもしろいことだ。たとえ隣りに大きなスーパーが建っても、小さな商店がやっていけるの
は、やはり、商店同士が結束して形成される商店街のお陰です。商店街があると人が集まり、商
店の一つ一つも繁栄するのです。スーパーでは下一ケタまで値段をきっちりと決めています。し
かし商店街では、商店の一つ一つの独自の値段で、商店の一つ一つには得意先が出来て、それ
なりにやっていけて、得意先となれば安くしてくれる、義理と人情の固まりが商店街なのです。

今回の研究では、交通と商店街とのかかわりとその商店街の持つ性格を結びつけて研究して
きました。高級品を主に売る(a)のような商店街では、客が遠くからもやって来るので電車等
の交通手段を使うことになり、駅の近くでは必然的に店の種類も変化が出てきます。(a)のよ
うな商店街では、駅との関連が強いということですが、また、高級品と日用品の両方を売る(b)の
ような商店街では、客は近所の人と遠くからやって来る人に分かれる。遠くから来る人はや
はり電車等の交通手段を使うことになり、駅の近くではそういう客をねらって商店の種類も変
わってきます。しかし、(a)ほどはっきりとその結果は表れないと思います。また、日用品
や食料品を主体として売る(c)のような商店街では、客は近所の人中心なので、電車を使っ
てこの商店街に来るということはほとんど考えられません。だから駅の近くでも商店の種類は
そう変化しないということですが、また、駅に近い所に多い商店の特徴は、軽い目的の商店や
銀行が多く、気軽に立ち寄れるということと、大きな買い物をする商店街ではそれなりにお
金が必要なので、銀行でお金をおろしてから買い物をするということが考えられます。だから、
駅との関連性が深いかどうかでその商店街で性格を検証することも可能です。結論として、
商店街にはいろいろな性格があり、その違いによって客や目的や商品、そして駅との関連に
よる商店の種類や分布等が変わってくる、ということである。商店街という集団は、一つ一
つの商店を集めた巨大なスーパーに似ていると思う。その結束力によって小さな小売店が生
きていけるのだと思う。たとえ大きなスーパーが建っても小売店が繁栄していけるための集
団、それが「商店街」だと思う。

V 著者のことば

今回の研究はやる所はきっちりとやれたと思うが、できない所は全くできなかった。だから今回の研究によって残された課題①各商店街の営業方針、②各商店街の宣伝広告について、③各商店街の歴史について、④商店街とスーパーの比較は、機会があればもう一度調べてみたいと思う。義理と人情と結束力で成り立ち、スーパーを相手に闘っている商店街の姿は、たくましくもあり、ほほえましくもあります。今回のこの研究を通して商店街の人間的な一面を垣間見ることが出来、そしてこの研究が完成したときの感慨は無量でした。

〈参考文献〉

昭和59年度自由研究「商店街」 三神山秀勲著

「続・商店街」完